

魔法の言葉 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：早淵 裕美

所属：茨城県立勝田特別支援学校

記録日：平成30年2月21日

キーワード：見通しをもつ 安心感

【対象児の情報】

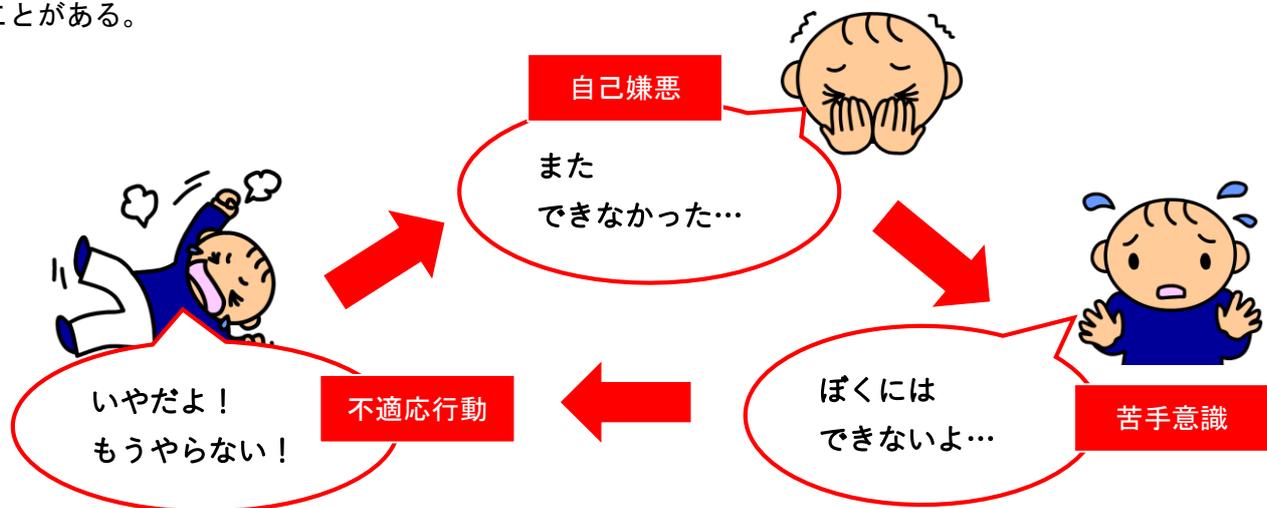
- ・学年 Kくん 小学部3年 9歳
太田ステージⅣ（平成29年6月9日実施）
S-M社会生活能力検査3歳10カ月（平成29年8月31日実施）



本を読むKくん▲

- ・障害名 知的障害を伴う自閉症 てんかん
- ・障害と困難の内容

- ・初めて行く場所や慣れていない所、日課変更にも動揺することがある。
- ・自分のやっていることを否定されたと感じた時に泣き叫ぶことがある。
- ・独り言が多く、作業の手が止まってしまったり、活動と関係のない行動をしてしまったりすることがある。



困り感が積み重なると活動に対する苦手意識が生まれてしまうという悪循環

このような実態から・・・

【活動目的】

○当初のねらい

- (1) 活動の流れがわかり、落ち着いて行事に参加することができる。
- (2) 自分で予定を確認し、学習の準備をすることができる。
- (3) 自分で気持ちを整理し、活動に戻ることができる。
- (4) 自分の気持ちを教師に伝えることができる。
- (5) 手順表を見ながら活動を進めることができる。
- (6) 一定時間、活動に集中して取り組むことができる。



自己統制中のKくん▲

- ・実施期間 平成29年5月～現在
- ・実施者 早淵裕美
- ・実施者と対象児の関係 学級担任

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況 その①

各検診，運動会や避難訓練，学校公開など，慣れていない行事や校外学習の事前学習など初めて取り組む学習では「こわい。」「がんばらない。」などと言いながら，耳を塞いだり，寝転がったりする。

～5月校外学習、事前学習～



授業開始時
少し不安な様子



20分後 寝転び
不適応行動



3時間後 授業終了後に
買い物練習を行う様子

以上のような実態から・・・10月以降の実践

○活動の具体的内容 その①

活動の流れがわかり，落ち着いて行事に参加することができる。



DropTalk HD

使用した時間帯

- ・事前学習
- ・家庭学習

実施した頻度

- ・随時使用



UC カレンダー

使用した時間帯

- ・朝の活動時
- ・家庭学習

実施した頻度

- ・随時使用



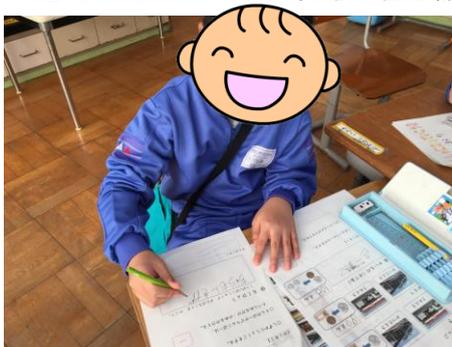
事前学習のスライドを見る様子▲

～1月校外学習～

スケジュールアプリで3学期の行事を確認した。

校外学習の日程と合わせて，事前学習が始まる日やDropTalkのスケジュールなどで学習内容（話を聞く日，注文の練習の日）も合わせて確認したことで，見通しがもちやすく学習にスムーズに取り組むことができた。

初回の事前学習で教師の「いつ校外学習に行くか知ってる？」の質問に「〇日だよ。」と自信をもって答えることができた。事前に校外学習の日を知っていたことや，友達や教師から「すごいね。なんで知ってるの？」など褒められたことで，学習意欲が高まり「〇だね。よしわかった。」などつつぶやきながらスライドに終始注目し話を聞く事ができた。



しおりに目標を書く様子▲

しおりをまとめる学習では，今までは教師に促されながら，取り組んでいたが，今回は自分で写真を貼ったり，文字を書いたりしながらまとめることができた。また，校外学習の目標は，いくつかの選択肢の中から選んでいたが，自分で「ちゅうもんをがんばる。」と目標を決めることができた。

見通しをもつことで，学習内容を理解し，落ち着いて事前学習に取り組むことができた。

～10月引き渡し訓練～

10月に地震発生時の引き渡し訓練を行った。

【この日の予定】

着替え→朝の会→シェイクアウト訓練→非常食体験→給食→引き渡し訓練（体操服で保護者の迎えで下校）
シェイクアウト訓練は月1回予告なしで行うため、とっさに机の下に移動でき、慣れてきている様子である。



iBooks

使用した時間帯

- ・事前学習
- ・家庭学習

実施した頻度

- ・随時使用



Microsoft office
Powerpoint

使用した時間帯

- ・事前学習

実施した頻度

- ・随時使用

【対象児の予想される不安感】

- ・1日がかりの防災訓練は今年度から行う行事
- ・普段の学習予定と異なる
- ・体操服で下校
- ・保護者の迎えの時間にばらつきがある
- ・ヘルメットを嫌がる
(保護者の迎えがあるまで30分程度かぶり続けなければならない)

【訓練の前日までに行った支援】

- ・DropTalkHDで当日のスケジュールを1週間前から教師と一緒に確認する。
- ・引き渡し訓練の様子の写真を見る
- ・頭を守るためのヘルメットの必要性や、電気や水道も使えなくなるなど、地震についての説明をのスライドを見ながら聞く。
→見通しをもてるようにする



Google

使用した時間帯

- ・事前学習

実施した頻度

- ・随時使用

本校で初めての試みの行事であったので適当な写真がなかった。そのため、検索アプリを使用し、教師が調べ提示したものをKくんが見たり、Kくんと一緒に検索したりし地震について調べた。

～引き渡し訓練当日～

朝から浮かない表情で、日課の予定をホワイトボードに書く仕事をとても嫌がった。「いやだ！訓練やらない！書かないもん！」と言っている。事前にスケジュールや内容の説明を聞いたが、初めてのことを行うのは不安な様子。Kくんが前向きに訓練に参加してくれる方法はないだろうか…？と考えたところ、Kくんはアニメや動画に興味があるので、防災について丁寧に説明されている子ども向けに作られたアニメ動画を見た。これを見たKくんは・・・

自分も話の中の登場人物になりきって、ヘルメットを自らかぶり地震の避難の仕方について理解することができた。その後、日課のホワイトボードへの予定書きを行うことができ、DropTalkHDで予定を1つ終えたらチェックをいれながら、見通しをもって活動することができた。

体操服で下校することや、母親の迎えを待つことも抵抗なく受け入れることができた。



ヘルメットをかぶる様子▲



子ども向け防災
動画を観る様子▲

～12月火災避難訓練～

12月に火災発生時の避難訓練を行った。

【この日の予定】

通常日課→給食後→通学服に着替え→火災発生時の避難訓練開始→グラウンドに集合→消防署の方の話を聞く→スモーク体験→帰りの会→スクールバス下校

【昨年度の様子】

- ・大勢人が集まる環境が苦手で、見通しのない状況で待機することが辛く泣いてしまった。
- ・ヘルメットをかぶることが難しかった。

【訓練の前日までにいった支援】

- ・子ども向け防災ビデオを観る。
- ・DropTalkHDで1日の流れを確認する。
- ・グラウンドに集まり避難する様子やスモークマシン体験の写真を見る。

～火災訓練当日～

事前に動画や写真で火災の際の避難の方法やスモーク体験についてイメージできるような学習を行ったことで、火災の避難訓練ではハンカチで口を押えて避難することやヘルメットの大切さを理解できたようだった。また、1週間ほど前から学校や家庭でDropTalkHDのスケジュールを見て当日の流れを確認していたことで、「給食の次は着替え。」と自分で言いながら準備を進めていた。避難訓練開始後は、事前学習の通りにヘルメットを着用し、ハンカチで口を押えながら避難することができた。スモーク体験では、教師が「動画で見たよね。入れるかな？」と聞くと、「こんなものへっちゃらだよ。」と言いながら得意気であった。言葉どおり、煙を吸わないようにハンカチで口元を押えながらスモーク体験をすることができた。



子ども向け防災動画を観る様子▲



訓練に参加する様子▲

～月1回予告なしのシェイクアウト訓練～

1学期までは、シェイクアウト訓練があることをDropTalkHDのスケジュールを見ながら「〇時があるよ。」と予告し確認していた。2学期からは時間を予告せずに「今日あるよ。」と訓練のイラストを見ながら伝えたが、地震の警報が鳴ると咄嗟に机の下に身を隠すことができ、落ち着いて取り組むことができた。繰り返し行ってきたことで見通しがもてる活動になったことから、急な訓練でも受け入れることができるようになった。



訓練に参加する様子▲



指示されたケーキを作る様子▲

～自立活動～

話し手に注目したり、自分から要求を伝えることを目標とする自立活動では、指示された通りのケーキを作る課題を行った。児童が好むキャラクターが登場し「イチゴののってる白いケーキを作ってね。」等とお願いされたケーキを作るものであった。動画を導入に使用すると注目して見ることができ、何をすべき時間かわかったようで、自分から活動に取り組むことができた。

○対象時の事後の変化 その①

困り感

- ・初めて行う活動で何をすればよいかわからない。



DropTalkHD を活用した

視覚支援

- ・イラストを見て学習の約束や自分の活動がわかる。

変化

- ・視覚支援を行ったことで、自分が何をすべきかがわかり、学習への取り組み方を理解することができた。

困り感

- ・全体に向かって話している内容を聞き取ることが難しい。

- ・初めての学習について理解できるか不安である。

- ・スライドがつまらないので飽きてしまう。



Microsoft PowerPoint

を活用した視覚支援

- ・手元でスライドを見ながら話の内容に注目し、話を聞いた。

- ・授業前にスライドを確認しておくことで、意欲的に学習に取り組むめた。

- ・アニメーションや音がするスライドに注目することができた。

変化



- ・スライドを手元で見られるようにしたことで、集中でき、学習内容の理解を促すことができた。
- ・事前に内容を確認しておくことで、見通しがもちやすくなり、自信をもって活動できた。
- ・アニメーションの音や動きが注意をひきつけやすい。

困り感

- ・自分が慣れていない場所にいくのは不安である。



iBooks を活用した

視覚支援

- ・授業外の時間に iBooks でスライドを見て学習内容を確認することができた。

変化

- ・携帯できるので自分の好きな時に内容を確認し、繰り返し見て内容を思い出せることから、安心できるツールとなった。

困り感

- ・初めて行う活動の雰囲気や場所のイメージがもてないので怖い。



Google を活用した

視覚支援

- ・写真や動画を検索し、自分が行う活動の様子を知ることができた。

変化

- ・検索することで、自分の知らないことや、未体験のことをいつでも調べることができたことがわかった。



○対象児の事前の状況 その②

予定していた外遊びが急遽室内になったときや、風邪気味でランニングを見学しなければならないときなど、自分の思い通りに活動できないときに大声で泣き叫ぶことがある。

○活動の具体的内容 その②

自分で予定を確認し、学習の準備をすることができる。



DropTalk HD

使用した時間帯

・事前学習

実施した頻度

・随時使用

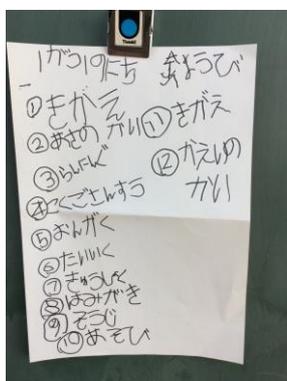


予定表を書く様子▲



朝の会で予定を発表する様子▲

毎朝、係の仕事で一日の予定を DropTalkHD のスケジュールを見ながらホワイトボードに書いていた。母親から個別面談で、家庭での課題を何か用意してほしいとの要望があり、予定書きを宿題にした。宿題にしてから、毎日欠かさず予定を書いてくることができている。



紙に書いてきた予定表▲

ホワイトボードを持ち帰り忘れてしまったときには、紙に書いて持ってきた。また、3学期から学習予定表を母親と確認しながら DropTalkHD でスケジュール編集をするようになった。まだ、母親が主に行っているが、イラストを選んだり、文字を入力したり自分からできることから取り組んでいる。1月に入ってから、教室に掲示してある学習予定を見て、今日は「○があるね。」と教師に話したり、予定を確認したりする習慣がついてきた。



DropTalkHD のスケジュール▲

予定の確認が習慣になったことで、授業ごとに確認しなくても「次の時間の用意をしようね。」と言葉をかけると自分から筆箱を出したり、ジャンパーを着たりする姿が見られるようになった。以前は教師が傍で言葉をかけ促していたことが、学級の児童全体への言葉かけを聞いて行動することができるようになってきた。

～急な予定の変更でも…～

1月、大雪のため2時間遅れの登校になった日があった。朝の準備や着替えを済ませたが、手袋をしたままだった。「手袋は外さないの？」と聞くと「雪遊びするんだもん。」と答えた。「朝の会が終わったら外で遊ぼうね。今は教室暖かいから外してもいいんじゃないかな。」と本人に同調しながら伝えたが「やだ！」となってしまった。Kくんが拒否する理由は、雪遊びを早くやりたいが、普段と違う日程になってしまったことに納得がいけないことが考えられた。予定していた授業が全て変更になってしまったので、DropTalkHD のスケジュールの編集を一緒に行いながら、予定が変わったことを伝えると、新たな予定がわかり安心したのか、ホワイトボードの予定表を訂正し、その後も落ち着いて過ごすことができ、雪遊びを楽しむことができた。



自ら移動する準備をする様子▲



変更を受け入れ、予定表を書き直す様子▲

○対象児の事後の変化 その②

困り感

- ・自分の1日の予定がわからない。
- ・予定が変更になり、普段と違ってしまうと不安である。
- ・いつもと同じ流れで生活したい。



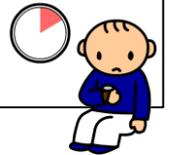
DropTalk を活用した

視覚支援

- ・DropTalk のスケジュールを見れば1日の予定がわかる。
- ・前もってスケジュールを知ることができ、いつでも手元で見返し予定を確認できるので安心できる。
- ・変更になった予定を自分でスケジュールに追加し書き込めた。

変化

- ・視覚支援を行ったことで、見通しがもてるようになり、落ち着いて学習に参加できる時間が増えた。
- ・事前に自分でスケジュールを確認することで安心でき、予定の変更を受け入れることができた。



～壁掛けカレンダーからカレンダーアプリへ～

壁掛けカレンダーでも支援は十分可能であるが、将来的に自分で予定を必要なときに確認できるようにUcカレンダーで行事の予定を確認している。明るい色合いのアプリであることから予定に対して明るいイメージがもてるのではないかと考えた。また、壁掛けカレンダーには、「友達にも予定を教えてあげようね。」と教師が言葉をかけたことから、Ucカレンダーに書いてある行事予定をKくんが書き写している。遠足では「晴れの時は○日、○日が台風の時には△日に行くよ。」と話をすると、壁掛けカレンダーに○日にはおひさまマーク、△にちに台風マークを書いていた。学部集会の日はにっこりマークを書いていた。Kくんの行事に対するイメージが絵から読み取れることに気がついた。



使用した時間帯

- ・事前学習

実施した頻度

- ・随時使用



カレンダーに予定を書く様子▲

遠足の3日前に自分でアプリを開き「もうすぐえんそくだね。」と教師に予定を確認することがあった。「そうだね。○日にあるね。」と言うと「楽しみだね。」と言っていた。徐々に自分で先々の予定を確認する様子が見られるようになったので「これを見ればわかる。」とKくんにとって見通しをもつための、安心できるツールであると気がついてきたのではないかと考えられ考えられる。

○対象児の事後の変化

困り感

- ・先々の行事予定がわからないので不安である。
- ・カレンダーを見て、繰り返し予定を確認しないと不安である。



Uc カレンダーを活用した

視覚支援

- ・前もって自分で行事予定を確認することができる。
- ・いつでも手元で見返し予定を確認できるので安心できる。

変化

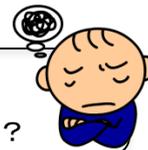
- ・自分で行事予定を繰り返し確認することで安心でき、落ち着いて行事に参加し活動することができた。

(1)(2)の実践の気付き

- ・自分で内容を繰り返し確認できる安心感
- ・自分で予定を繰り返し確認できる安心感



安心感を得られるようにすることで
Kくんの困り感が解決できるのでは？



○対象児の事前の状況 その③

- ・活動に参加させようと誘っても大声で泣き叫び、活動に戻るまで2・3時間かかることがある。

○活動の具体的内容 その③

自分で気持ちを鎮め、活動に戻ることができる。

～気持ちを鎮めよう～

算数の時間に数字を書き間違えたことを指摘され、イライラし「もうやらない。やぶく！」とプリントを破ろうとしていた。

以前のKくんなら破っていたが・・・

- ・カーテンで教室を区切り、1人の空間を作る。
- ・タイマーを5分にセットし、「休んでいいから、タイマーがなったら戻ってきてね。」と言葉をかけた。
- ・タイマーがなった後、カーテンを開け自ら活動に戻ることができた。
- ・「落ち着いた？」と聞くと「もう大丈夫。」と答え、自分の中で気持ちに折り合いをつけることができた。
- ・活動に戻る事ができたことを「がまんできてえらいね。」と褒められると「うん。」と笑顔で喜んでいた。



クールダウンしている様子▲

～気持ちを鎮めよう 10月以降～

10月から文化祭の練習が始まり、時間割の変更や活動場所の変更が多くなった。前日には時間割の確認や場所の変更を家庭で確認してきている。いざ授業が始まると「やらない。」と怒ることがあった。衣装を着る事が嫌だったり、セリフを言わなかったりしたときは「休んでくる？」と聞き「うん。」と答えたときは別室に移動した。絵カードタイマーを使い自分で休む長さ(約1～5分程度)を設定した。設定すると床に横になり、タイマーがなるとぱっと起き上がり、その後は練習に戻り活動に参加することができた。



絵カードタイマー

使用した時間帯

- ・イライラした時

実施した頻度

- ・随時使用

○対象児の事後の変化 その③

困り感

- ・イライラや怒る気持ちの鎮め方がわからない。
- ・気持ちを切り合えるタイミングがわからない



環境調整の支援
絵カードタイマーを
使用した視覚支援

変化

- ・一人で静かな環境で休むと気持ちが落ち着く。
- ・タイマーが鳴る、目盛りが0になった時が活動に戻るタイミングであることがわかった。



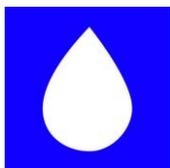
- ・不安になったときは一定時間休むことで冷静になることができ、気持ちを自分で鎮めることができた。徐々に1時間→30分→5分と休む時間が短縮できた。

○対象児の事前の状況 その④

間違えて書いた文字を訂正するように指示されたときに「やだやだ！」と言いながらプリントを破ったり、大きなバツを書いたりする。また、図工の作品などが思い通りにできないと感じた時に「やらない！」と投げ出してしまふことがある。

○活動の具体的内容 その④

自分の気持ちを教師に伝えることができる。



DropTalk HD

使用した時間帯

・気持ちが落ちつかない時

実施した頻度

・随時使用



きもちカード▲

Kくんにとってわかりやすい感情や普段の口癖などを考慮しカードを作成した

～嫌だよ！！～

「やだやだ！」と始まったときに、「何が嫌なの？」ときもちか一どを提示し聞くと、「むずかしい。」「こわい。」と答えることが多い。教師が「むずかしいよね。じゃあよくお話を聞いたらわかるかもよ。」と言葉をかけると顔を上げ、学習活動に戻ろうとする様子が見られるようになってきた。

～どうしたらいいの？～

「何が嫌なの？」と教師に聞かれ、「こわい！」などと答えるやりとりをしてきたが、12月以降から、体育の実技の手本を教師が見せると「そんなの難しいよ。できっこないよ。」と自分の思いを話す姿が見られるようになった。「○するとできるよ。」「Kくんならきっとできるよ。」など、助言や励ましの言葉をかけると「うん。わかった。」と返事をし、安心できるようである。その後の活動も積極的に取り組むことができることが増えてきた。また、初めて行う学習や慣れていない活動場面では、教師の話の聞きかたがよくなるようになり、わからないときには「どうしたらいいの？」と教師に聞くようになった。「難しいよね。でも○をすれば大丈夫だよ。」「先生と一緒にやってみようね。」などのやりとりをすることがある。Kくんの気持ちを汲みながら教師が不安を解消できるような言葉をかけるやりとりを繰り返したことで、教師に気持ちを伝えると安心できると思えるようになったのではないかと考える。家庭でも、わからないことについて「どうしたらいいの？」と聞く事があるようなので、困った時には「聞けばわかるかもしれない」ということに気がつくことができたようである。

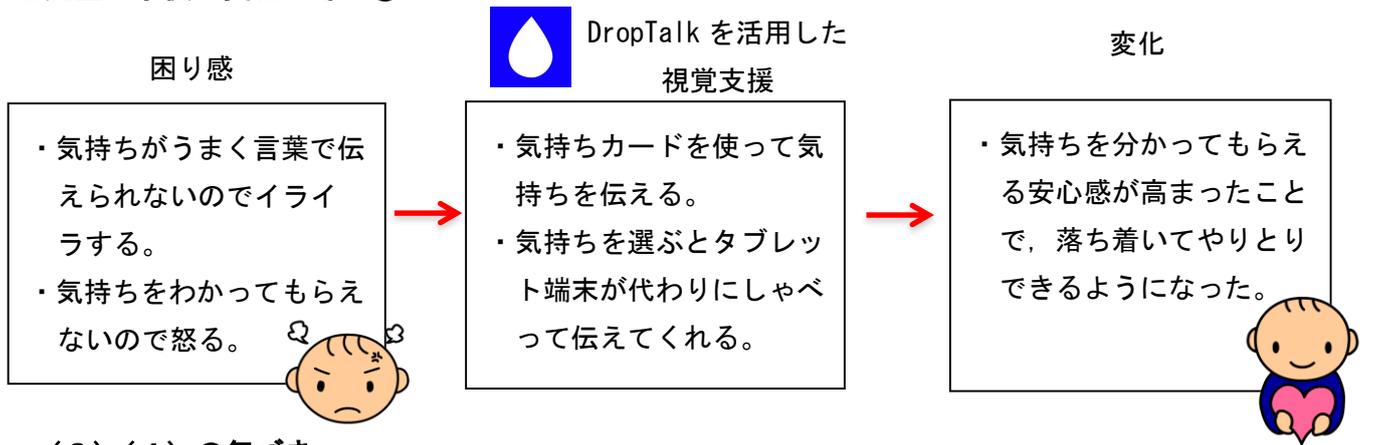
～友達とのやりとり～

1学期は友達と貸し借りなどのやりとりが難しく、自分の意図するようにならなかった場合に、泣いてしまったり、大声をだしてしまったりするなど課題が見られた。3学期に入り、友達に「本貸して。」と言われたとき「いいよ。」と素直に貸すことができた。また、自分から「本貸して。」と頼んでも断られてしまったときには、「○くんのいじわる。」と思いを口にしていることがあった。泣かずとも自分の気持ちを言葉で表現できるようになった。お互い譲ることが難しい際には、教師が間に入り、「長い針が○になったら交代しようね。」と言葉をかけることで納得し友達と貸し借りすることができるようになってきた。

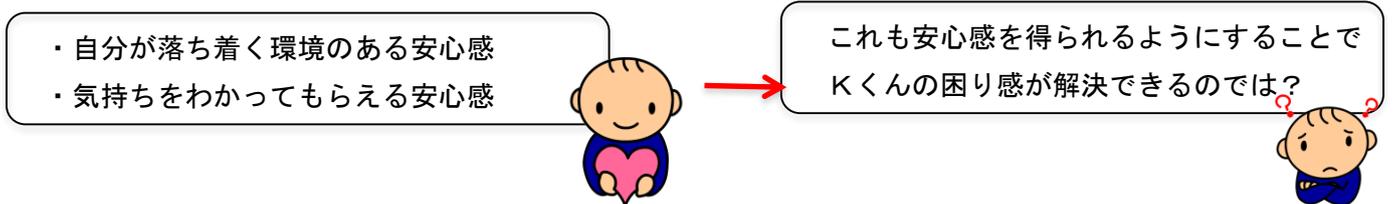


7月 読みたかった雑誌が読めず怒っている様子▲

○児童の事後の変化 その④



(3)(4)の気づき

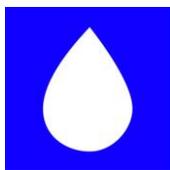


○対象児の事前の状況 その⑤

着替えや、荷物の片付け、物語の場面の独り言を言い始めると手が止まったり、教室内を歩き回ったりする。

○活動の具体的内容 その⑤

手順表を見ながら活動を進めることができる。



DropTalkHHD

使用した時間帯

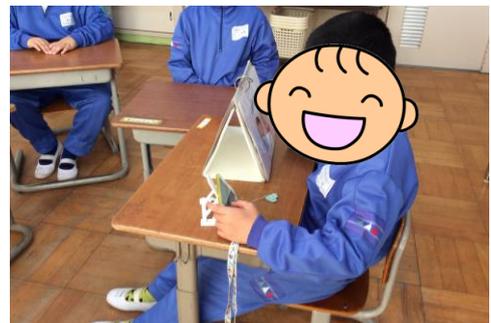
- ・朝の会・帰りの会などの司会
- ・図画工作など制作活動

実施した頻度

- ・随時使用

～朝の会・帰りの会～

最初は、イラスト付きのめくり手順表を使いながら司会を進めていたが、友達が発言している最中に独り言が始まるが多々あった。教師の「次は？」という言葉かけを聞いて進めようとするが、既に終わっている項目に戻ってしまうこともある。友達に「それは終わったよ。次は〇〇でしょ。」と指摘されることもあった。司会を進める見通しがもてるように DropTalkHHD で作成した手順表を使用した。「いまから あさのかいをはじめます れい」といったようにセリフを入れておくと、気が逸れることもなく、1つずつ読みながら進めることができた。終わった項目は消えるように設定したので、同じ項目に戻る事なくスムーズに司会を進めることができるようになり、教師の言葉かけも少なくなった。



11月 朝の会を進める様子▲



司会手順表▲

～苦手な図工だったけど～

図工でも DropTalkHD の手順表を使用し、行程の写真と文字を読みながら作品作りを進めることができた。最初は、教師と一つ一つ手順を確認しながら進めていたが、慣れてくると終わった項目にチェックを入れ「次は○だね。」と言いながら自分で進めることができるようになってきた。難しいと感じたときには、教師に「どうやるの?」「やってください。」などと伝えることが増えた。Kくんの要求を聞きながら、イメージする作品を仕上げるができるように教師が助言をしたり、手を貸したりした。イメージ通りの作品ができたことでKくんも満足そうな様子で、上手にできた作品は写真を撮影し休み時間に見返したり、家庭で保護者に見せたりしている。見通しがもてるようになったり、行程通りに進められるようになったりしたことで、授業態度や作品を褒められることが増え自信がついてきたようである。



ステンシルに取り組む様子▲



Kくんが描き
自ら撮影した福笑い▲

ステンシルで
描いたロボット▲



お楽しみ会司会の手順表▲

～初めての司会～

今まで、友達の前など人前に出て話すことが難しく、様々な授業で発表となると「やだよ!」と言っていたKくん。気持ちの切り替えも早くなり、見通しをもって落ち着いて生活できることを評価され、2学期のお楽しみ会の司会に抜擢された。初回の事前学習の段階では、「司会はKくんをお願いします!」とスライドに出た自分の顔写真を見て驚き「できない!」の一点張りであった。落ち着いた頃に改めて教師から「とてもがんばってるKくんにおもしろいんだよ。」と励ましの言葉をかけると、少し考え「しょうがないなあ。わかったよ。」と答えた。

了承してくれたので、お楽しみ会の内容を理解できるように、お楽しみ会の事前学習のスライドを iBooks に入れておき、学校や家庭で確認できるようにした。また、DropTalkHD で司会の手順表を作成し、学校でも数回練習した後「司会のお仕事上手になってきたから、お家でも練習してきてね。」と伝え、タブレット端末とおもちゃのマイクを持ち帰った。次の日「マイクを使って張り切って練習していました。」と連絡帳に書いてあった。お楽しみ会までの3日間マイクを持ち帰り、家庭でも毎日練習をすることができた。

迎えたお楽しみ会では、友達の前に出て司会の仕事を全うすることができ、はきはき大きな声でできたので学年の先生に褒められた。Kくんの成長がとても感じられた出来事であった。



お楽しみ会司会の様子▲



手順表を撮影する様子▲

また、手書きの教材を使用していた際に、自分の手元に手順表がなかったため、自分で撮影し手元で確認していた。自分で活動しやすいように工夫しようとする姿が見られるようになった。



○対象児の事後の変化 その⑤



DropTalk を活用した
視覚支援

変化

困り感

- ・どのように活動を進めたらいいかわからない。
- ・興味のない活動を続けるのは辛い。
- ・活動時間がわからないので不安である。

- ・手順表を見て朝の会の進め方がわかる。
- ・短時間であるが、手順表を見ながら活動できた。
- ・タイマーを見ながら終わりを意識して活動できた。

- ・活動時間や進め方の手順がわかることで、見通しがもちやすくなり、スムーズに活動に取り組むことができるようになってきた。

○対象児の事前の状況 その⑥

集中が切れると独り言を言い続ける。近くで顔をみながら「Kくん。」と呼びかけると教師の呼びかけに気がつき作業に戻る。

○活動の具体的内容 その⑥

一定時間、活動に集中して取り組むことができる。



絵カードタイマー

～片付けが早い～

給食を早々と食べ終えたので、「次はお皿置いてこようね。」と教師が言葉をかけた。Kくんは皿を下膳かごに置きにいったが1枚ずつ運ぶ上に、独り言を言いながらなので4枚の皿の片付けに10分かかっていた。教師が言葉をかけると次の行動に移るが、再び気が逸れるの繰り返し。一人で片付けを進められるようになってほしいと思い、次の日絵カードタイマーを用意し、「赤が減るまでに片付けてね。」と言葉をかけ、タイマーを7分に設定した。すると、絵カードタイマーの時刻を見て時間が刻一刻と減っていることに気がついたのか、皿を4つまとめて置きにいき、エプロンなどの自分の身支度を素早く片付けられた。片付けを終えた段階でタイマーは3分ほど時間が余っていた。その後も歯磨きを残りの3分で済ませ、残りの10秒でトイレに行った。7分で食後の片付けから歯磨き今までの半分以下の時間で片付けを終えることができたのだ。

視覚的に時間を意識することができ、「終わりの時間」が定まる事でスムーズに取り組むことができたので、Kくんにとって有効な手段の一つであることがわかった。また、時間を意識すると自由な時間を増やすことができることに気がついたようで、片付けを終えたとお気に入りの本を読んで過ごすことができるようになった。

使用した時間帯

着替え、朝・帰り
給食の用意・片付け
歯磨き

実施した頻度

随時使用



かたづけ絵カードタイマー▲

～歯磨きは3分間～

歯磨きを磨きながらも、独り言を言っているので教師に促されるまで10分近く磨いていることが多かった。そこで、一定時間集中して磨くことをねらいとし、絵カードタイマーで終了時間を示し、目盛りが0になるまで歯を磨くようにした。いつまで磨けばよいか明確になり、自分で3分に設定し磨くことが習慣となった。ある日、Kくんの友達が歯磨きを丁寧にするように指導されていると、自分もきれいに磨こうと思ったのか、内カメラで自分の口の中を見ながら歯を磨いていた。「上の歯～♪」と歯磨きの歌を歌いながら写真を撮っていた。タブレット端末を手鏡代わりにする便利な方法なので、Kくんが自分で考えて始めた方法であるが、歯磨きの支援として今後も取り入れていきたい。



写真の内カメラを手鏡に▲

○対象児の事後の変化 その⑥

困り感

- ・活動をいつまでに終わりにすればよいかわからない。
- ・活動がいつ終わりになるかわからないので不安だ。



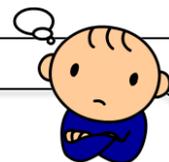
絵カードタイマー
を活用した視覚支援

- ・絵カードタイマーの写真と時計を見れば何をいつまでに終わりにすればよいかわかる。
- ・残り時間がどのくらいあるかわかる。



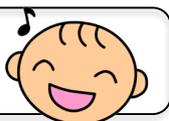
変化

- ・終わりの時間が明確にわかり、見通しがもてるようになったことで、時間内にすべき活動を終わることができた。



(5) (6) の実践の気づき

- ・活動の流れがわかる安心感
- ・終わりの時間がわかる安心感



これもまた
安心感を得られるようにすることで
Kくんの困り感が解決できるのでは？

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

安心感を得られるような支援をすることで本人が抱える困り感を解消できるのではないかな？

○エビデンス

活動内容を繰り返し確認できる



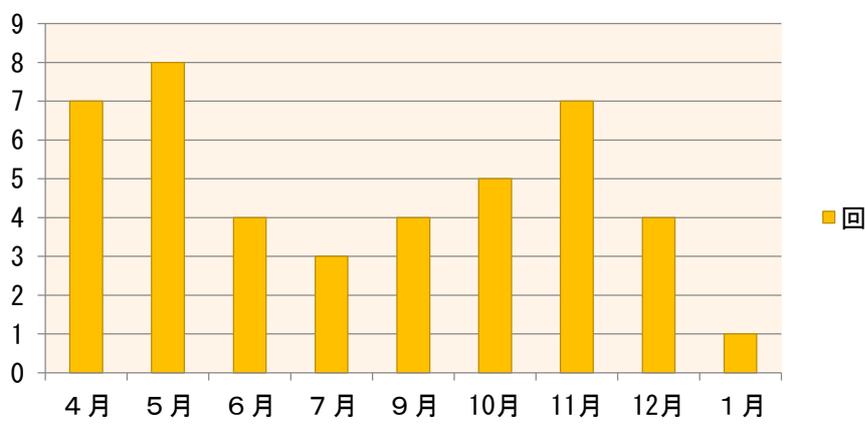
予定を繰り返し確認できる



事前に見通しがもてるよう、手元で事前学習の内容がわかるように、iBooksにPowerPointのスライドを入れて確認するようにした。2学期は行事が多く、時間割や場所の変更が週に1度は必ずある状況が続いたが、事前にDropTalkHDで予定を確認しておくことで変更を受け入れる事ができ、活動に参加することができた。また、自分から予定や約束を確認する姿が見られるようになった。しかし、授業の場所が直前に変わる、普段と違う雰囲気での学習の際には、独り言が多くなることもあり、変更を受け入れることが難しい様子が見られることもあった。家庭で予定の確認を行うことで、学校生活に見通しがもてるようになり、落ち着いて過ごせることが増えてきた。

年度始めは、不適応行動の回数が多い傾向にある。6月、7月は徐々に減ってきているがKくんの体調がすぐれなかったことが原因として考えられる。10月、11月は学校行事が多く、見通しがもち辛くなり不適応行動が増えたように考えられる。ただ年度始めに比べて自己統制の時間は短くなっているの、騒いでしまっても自分でタイマーをセットし横になれば気持ちを落ち着けることが増えてきた。

不適応行動の月ごとの回数の変化



▲ここでいう不適応行動は、泣くなどし、その後の活動を続けられなくなったり、授業中騒いでしまったりした際の行動をさす。

活動内容を繰り返し確認できる



2学期からは学習の内容を簡単にまとめたスライドを iBooks に入れておき、家庭で保護者と一緒に学習内容を確認できるようにした。児童が不安になるだろうと予想される行事（校外学習や文化祭）についてのスライドを主に、繰り返し見るようにしたことで見通しをもち活動できた。文化祭のステージ発表はとてもプレッシャーに感じていた様子で前日まで涙目になり「文化祭嫌だな。」と言っていたが、当日の朝、不安ながら自分でスケジュールを確認し「発表がんばる！」と気持ちを前向きにすることができた。保護者も大変心配していたが、「立派にステージ発表する姿が見られて感動しました。」と話している。児童も「がんばったよ。えっへん。」と嬉しそうにしており、自信がもてる経験ができたようだった。

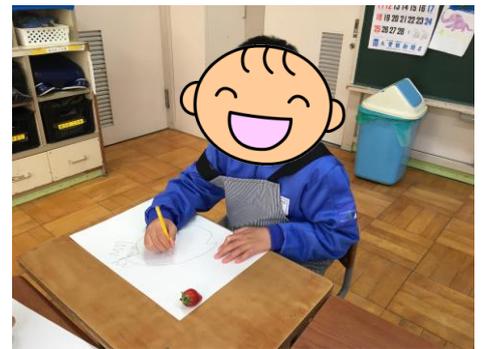
活動の手順を繰り返し確認できる



自分の気持ちをわかってもらえる



気持ちの切り替えが早くできるようになってきたことで、以前から苦手意識の強かった図画工作も意欲的に取り組む姿が見られるようになってきた。手順表を見ながらやれば失敗が少ないことがわかり、自ら手順表を見て作業を進めることができるようになった。できた作品の写真を撮影し、家庭で見せている。ある時は自分で作った作品を気に入ったようで「持ち帰りたい。」と教師に伝えてきたことがあった。できたことを褒められることが増え、意欲的に活動できるようになってきた。



図工でいちごを観察しながら描く様子

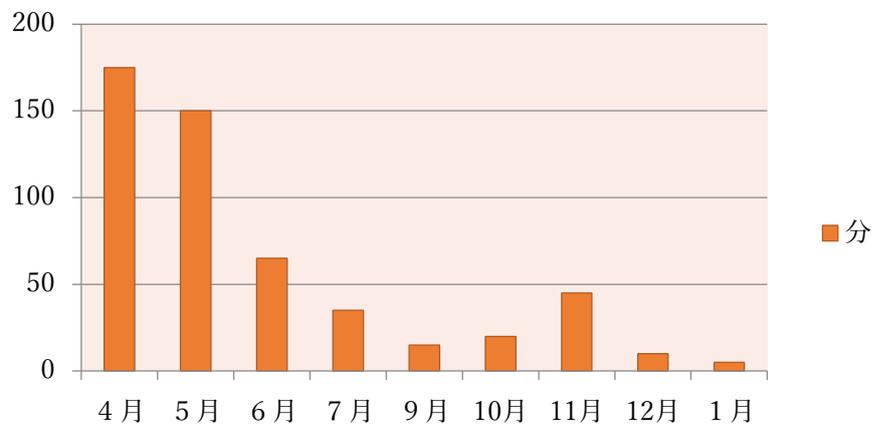
Kくん▼



自立活動で友達とやりとりする様子▲

生活場面で気持ちを伝えることができるよう、イラストを提示するなどの視覚支援を5月から継続して行ってきた。「ぱにっく」のイラストを選んだときには、Kくんが落ち着くまで休んでから活動するようにした。2学期後半から、気持ちが落ち着かなくなったときには自分でタイマーを設定し休みにいく様子が見られた。

自己統制から活動に戻るまでの月ごとの所要時間の変化



▲ここでいう自己統制は、気持ちを落ち着けるために不適応行動の後に伏せるなどし、気持ちを切り替えようとする様子をさす。月の所要時間とはひと月の平均時間のことである。

自己統制から活動に戻るまでの時間が4月5月は3時間近くかかっていたが、視覚支援を行い始めてから徐々に短くなっている。11月は行事が多かった上に、プレッシャーとなっていた文化祭のステージ発表の練習があったため、気持ちの切り替えにやや時間が長くかかっている。12月以降は10分以下で活動に戻るできるようになった。

終わりの時間がわかる



終わりを意識できるようになってきたこともあり、一定時間の集中力ものびてきている。タイマーを使用している場面では、自分で時間を設定し、行う習慣がついてきた。朝の会でも、友達に注目し話を聞ける時間が長くなってきた。



絵カードタイマーを使用し
歯磨きをする様子▲

〇まとめ



朝の会で話を聞く様子▲

(1)～(6)それぞれの支援が相互に作用し、児童が過ごしやすい環境を整えることができた。

例えば、気持ちを切り替える時間が早くなったこと、手順表を見ながら学習を進められるようになったことで学習時間内に予定していた活動を終えることができ、褒められることが増えた。今後も支援を継続し安心感がもてるような支援を行っていく。

